

施策の方向 II-2 産業廃棄物対策等の推進

指標	目標・現状・指標がめざす方向
産業廃棄物排出量	【目標】2014年度における排出量について、2009年度の排出量を維持(※) 【基準年度】2,869千トン(2009年度) 【指標がめざす方向】現状維持
産業廃棄物再生利用率	【目標】2014年度までに約53%(※) 【基準年度】50.5%(2009年度) 【指標がめざす方向】高いほうが良い
産業廃棄物最終処分量	【目標】2014年度までに117千トン(※) 【基準年度】148千トン(2009年度) 【指標がめざす方向】少ないほうが良い

※ 「第5次川崎市産業廃棄物処理指導計画*」に基づく目標数値

目標・指標の達成状況	指標評価	方向評価
■指標：産業廃棄物排出量 ・1,969千トン(対前年度：692千トン減少)(※※)	—	—
■指標：産業廃棄物再生利用率 ・38.8%(産業廃棄物の再生利用量76万トン)(※※)	—	
■指標：産業廃棄物最終処分量 ・21千トン(※※)	—	

※※ 多量排出事業者*等が提出する廃棄物処理計画実施状況報告に基づく集計値によるもの

各指標の現状が示す数値は、産業廃棄物処理指導計画の策定にあたり、基礎資料を得るため、業種別の特性や規模別の特性を考慮した上で実施した産業廃棄物実態調査に基づく推計値で、5年毎に実施しているものです。

それに対して、目標・指標の達成状況として示す数値は、多量排出事業者等が提出する処理状況報告書から、排出量、再生利用率、最終処分量を求めたもので、同じ多量排出事業者における経年経過を比較するものではないことから、目標・指標の達成状況を評価する正確な数値ではなく、参考として示しています。

現 状

■産業廃棄物排出量

市では、産業廃棄物*行政の基礎資料とするため、5年毎に産業廃棄物実態調査を実施し、市内における産業廃棄物の発生、処理、処分状況を把握しています。

2009年度の調査結果によると、市域から発生した産業廃棄物の発生量(事業場内で生じた不要物量)は470.4万トンとなっており、前回調査(2004年度)結果の496.2万トンと比較すると、約26万トン減っています。

■産業廃棄物再生利用率

また、2009年度には、有償物量と再生利用量(排出量の中から原料として利用した量)を合計した資源化量は328.6万トンとなっており、発生量の69.8%が資源として有効活用されています。

なお、第5次川崎市産業廃棄物処理指導計画では、発生量から有償物を取り除いた排出量における再生利用率の目標値を約53%(2009年度：50.5%)と設定し、2014年度までに達成することを目指しています。

■産業廃棄物最終処分量

大手排出事業者は、3Rの推進状況は良好であり、指標に掲げる目標より、かなり上回っている状況です。

産業廃棄物の業種別発生量（2009年度実績）
（単位：万トン/年）

業 種	発生量	割合（％）
製 造 業	362.1	77.0
建 設 業	70.6	15.0
電気・上下水道業	32.7	7.0
その他	5.0	1.0
合 計	470.4	100.0

産業廃棄物の種類別発生量（2009年度実績）
（単位：万トン/年）

種 類	発生量	割合（％）
汚 泥	149.3	31.7
鋤 さ い	190.9	40.6
がれき類	53.2	11.3
そ の 他	77.0	16.4
合 計	470.4	100.0